

I C Tで未来を創る私の仕事

デジタルと人の手で阿賀野市を支える ～地方のデジタル化に求められるものとは～

阿賀野市 デジタル化推進専門員（富士通 J a p a n 株式会社）

永澤 友紀子さん

インタビュアー 新潟国際情報大学3年 中原 拓渡 さん

令和5年度から阿賀野市で勤務している永澤さんに、富士通 Japan で中央省庁のシステム開発に携わっていた経験を活かして、市民の皆さんのより良い暮らしを実現するためにどのようなお仕事をされているのか、お話を伺いました。

中原 本日はよろしくお願ひします。早速ですが、阿賀野市でどのような業務をされているのでしょうか。

永澤 私の所属は、阿賀野市の企画財政課デジタル化推進室と申しまして、デジタル技術を活用した市民へのサービス向上や庁内の業務効率化に取り組んでいます。どのような課題があるか整理して、課題に対する解決策を検討し、解決策の企画の立案から実現の支援まで行っております。

中原 市役所のデジタル化というと、やはり電子申請のように行政手続きを電子化するというのが思い浮かびます。そういったお仕事はされているのですか。

永澤 はい、もちろんそういった業務もありますが、従来窓口でやっていた業務を電子申請で行えるようにしただけでは、ただデジタル化しただけに過ぎません。私の仕事のミッションの一つがデジタル化を活用した業務の効率化なので、「そもそもデジタル化することが正しいのか」を検討しています。現在の業務フローを担当者から提供してもらい、デジタル化した方が良さそうな業務を洗い出すといった仕事をしています。



お仕事風景

中原 なるほど。逆にここはデジタル化しない方が良いという業務はあるのでしょうか。

永澤 もちろんあります。やはり市役所になりますので、市民の方と直接コミュニケーションをとる部分は、絶対減らしてはいけないところだと考えています。市役所の業務の中では、絶対に人の手でしかできないことと、デジタルでもできることがありますので、その見極めが大切だと考えています。



永澤 例えば電子申請システムを導入したとしても、高齢者の方には、なかなか操作に戸惑うところがあると思います。そのような場合は、対面でコミュニケーションをとることで、フォローしていくことが大切だと思います。

中原 次に、ICT関連の仕事には、どんな魅力があるか教えていただきたいです。

永澤 同じ場所にいない、離れた人ともコミュニケーションがとれるというところはICT技術の魅力ですね。例えば、今もオンライン会議システムを利用することで、阿賀野市役所から遠隔でインタビューを受けることができますよね。全国に向けて自分のやったことを展開・波及させるうえで、仕事をする場所を選ばないところがICTの仕事の魅力だと感じています。



お仕事風景

中原 逆にお仕事されている中でここが大変だったという経験はありますか。

永澤 先ほどの話の裏返しになりますが、間違ったことが広がるのも一瞬です。自分の発言や、自分が作ったものに責任を持たなくてはいけないところについては、大変だなと感じます。ただ、阿賀野市に居ながら全世界に情報を発信できるという意味では、やはりすごくいいなと思っています。全国の皆さんに新潟を見てもらえますからね。

中原 確かにそうですね。阿賀野市に来たきっかけはどのようなことですか。

永澤 私は、もともと関東圏で中央官庁システムの保守運用に関わる仕事を担当していました。国の考えや方針等に基づいてシステム開発を行ってきました。しかし、実際に開発したシステムが地方でどのように使われているのか、現場の実情が見えづらいと感じていて、機会があれば地方で仕事してみたいと考えていました。そんなときに、社内で阿賀野市への出向職員募集があり、チャンスだと思いました。最初は、阿賀野市についてよく知らなかったので調べるところから始めましたが、阿賀野市がどのようなところなのか情報があまり出てこなかったんです。そんなとき、たまたま近所で阿賀野市の物産展が開催されていることを知り、行ってみることにしました。そこにいらっしゃった現地スタッフの方々から「阿賀野市を盛り上げたい」という熱意をすごく感じまして、この方々と一緒に仕事がしてみたいと思いました。これはもうご縁だなと思い、すぐに応募したん

です。

中原 本当にバッチリのタイミングで物産展が開催されていたのですね。阿賀野市の良さはどんなところですか。

永澤 ほど良く田舎なところだと思っています。私はずっと関東で過ごしてきたので、日本海側に住むのが初めてでしたが、買い物できる場所も近くて生活する上でも特に不便はないですし、自然が豊かできれいな田園が広がっています。冬場は雪国特有の風景が広がり、道路に設置されている消雪パイプというものを初めて見ました。雪が積もった時の歩き方も最初はよく分からず戸惑いましたが、ご飯はとてもおいしいですし、都会の人が理想とする田舎だと思っています。

中原 民間と行政の立場の違いで、ICTに求められる役割に違いがあれば教えてください。

永澤 民間企業では、システムを使うお客様にとって良いものを提供することを第一としていた印象です。そして、良いものをさらに改善してお客様の満足するものを提供します。一方で、行政のシステムでは、住民の方一人ひとりを意識して、誰がそのシステムを使っても同じ使い勝手に使えるようなシステムを目指します。例えば、高齢者や障害のある方にとって使いづらいシステムとなってしまうので、考慮する観点が異なっていると感じています。

また、国では全国の自治体に向けて働きかける必要があります、ある程度1つの大きい枠として見ている部分があるのですが、実際には個々の自治体で事情が異なるため、同じシステムでも細かいところでカスタマイズする必要があるということを感じましたね。今後は、国と地方の橋渡し役として、地方からどんどん声を上げていければと思っています。

中原 システムエンジニア（SE）というと専門性が高い分野であり、学生時点からそれ相応の勉強が必要というイメージがあります。

永澤 やっぱり皆さんSEというと、パソコンにかじりついてカタカタやって、あまり会話がないうようなイメージがあるのではないかと思います。確かに、プログラミングをするという仕事はSEとしての仕事ではあるのですが、お客様からどのようなシステムがほしいかお話を聞いて、要望として整理／調整するという仕事もあります。これを要件定義と呼びますが、これもSEとしての大事な仕事になります。SE職といってもいろいろな分野の仕事があり、必ずしもICTについての専門知識やプログラミング能力が必要になるという訳ではないです。実際に、文系出身でSEになられる方も結構いらっしゃいます。



中原 最後にICT分野に興味を持っている学生さんにメッセージをお願いします。

永澤 ICTといっても幅広い仕事があるので、いろんな方に挑戦してもらえればと思います。先入観だけで怖がらずにチャレンジしてほしいですね。

あと、自分の苦手だなと思うところについては、それほど無理に克服しなくてもいいので、自分のやりたい気持ちを大事にしてほしいです。SEという職業は、知られている以上に、広い分野に関われる仕事です。

もはやデジタルに関わらずに生きることはできない時代になってきており、今後はますますデジタル人材が不足するようになると思います。だから、今ICTのことが何もわからないという人も、少しでも興味があるところを見つけて、ぜひ挑戦してもらいたいと考えています。

令和6年8月20日インタビュー

※社名、所属等はインタビュー時現在です。

企画・政策：新潟県知事政策局ICT推進課・新潟県ICT推進協議会

